



2020年度 第73回 全日本フェンシング選手権大会 開催のご案内

2020年6月25日 日本フェンシング協会

全日本選手権大会の進化

A background image of a fencer in a white uniform with red and blue accents, holding a foil and in a ready stance. The image is darkened to serve as a background for the text.

全日本フェンシング選手権大会は
3つの柱でこれまで進化を続けてきました。

決勝会場の進化
及び話題化

大会観戦者数の
増加

チケット単価の
プレミアム化

決勝会場の進化及び話題化

決勝会場を拡大し続けることで、
戦略的にニュース性を
維持してきました。

全日本選手権決勝会場の変遷



2017年
駒沢オリンピック公園
総合体育館



2018年
東京グローブ座



2019年
LINE CUBE SHIBUYA
(渋谷公会堂)

大会観戦者数の増加

会場のみならずオンライン観戦を取り入れ、観戦者数を増やしてきました。

全日本選手権観戦者数の推移

2017年
1,500名

2018年
700名/36,015名*

2019年
3,198名/63,975名*

*: インターネット視聴におけるユニークユーザー数

チケット単価のプレミアム化

チケット単価を上げ、集客数に頼らない収益の確保を実現してきました。

全日本選手権観戦チケット最高単価の推移

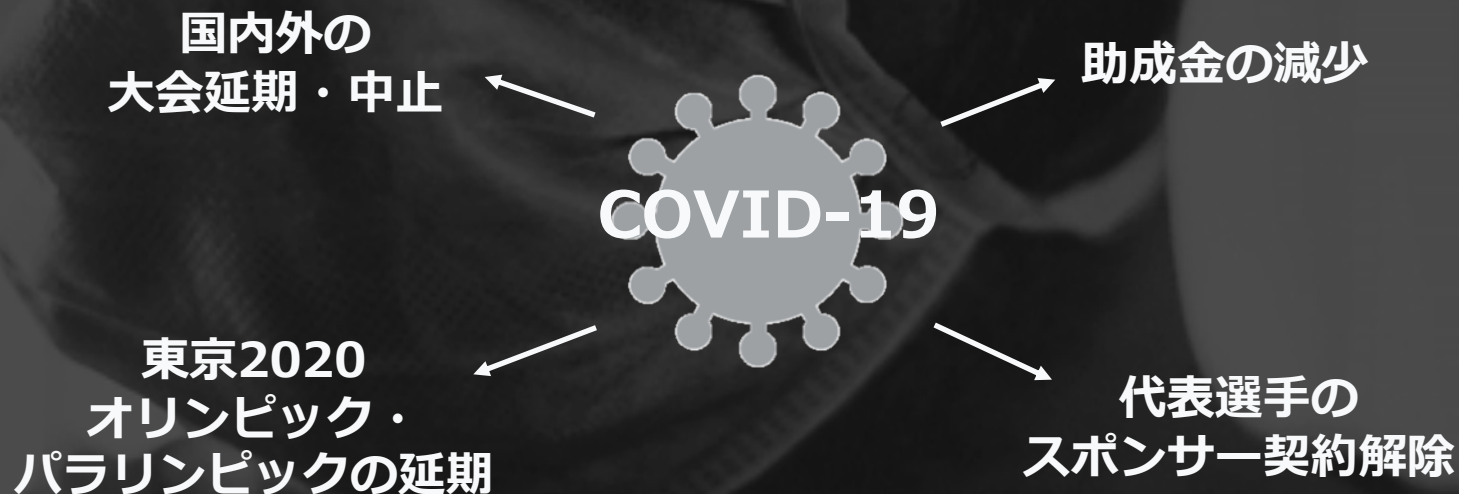
2017年
1,000円

2018年
6,000円

2019年
30,000円

本年度を取り巻く状況

COVID-19が大きな影響を与えている中、
会場での観戦に対する意識は、簡単に戻らないと捉えています。



本年度の全日本選手権実施方針

集客こそが財政基盤を安定化させる手段であるという前提が崩れつつある中、

- 集客に頼らない観戦体験にアップデートする
- 会場に集まらずともフェンシングがもつ熱量を届ける
- 会場での観戦体験とは異なる価値を提供する

新時代の大会を実現します。

第73回全日本フェンシング選手権大会ステートメント

諦めない心も、挑戦する勇気も、
すべてスポーツが教えてくれた。

練習する場所がなくなり、数々の試合や大会が中止になった。
この数ヶ月、スポーツは立ち尽くした。
世界が少しずつ動き出そうとしている今。
私たちは、新しいスポーツの価値をつくろうと思う。
新しい体験をつくり、新しい感動をつくる。
なくしたものを嘆いたり、元に戻すことに執着するばかりではなく。
私たちは、何かを発明することもできるはずだ。
諦めない心も、挑戦する勇気も、すべてスポーツが教えてくれた。
これからの時代のスポーツ体験、
フェンシングからその一歩を踏み出します。

第73回全日本フェンシング選手権大会コンセプト



NEW STANDARD



第73回全日本フェンシング選手権大会コンセプト

NEW STANDARD

NEW MANAGEMENT

観戦体験におけるお客様との距離をおくことはもちろんのこと、大会運営においても本状況下を考慮しながら推進します。

NEW EXPERIENCE

会場での観戦体験とは異なる、オンラインを通じた観戦でしか生み出せない価値を提供します。

NEW ENGAGEMENT

集客が前提にない中、観戦者との繋がりにおいて新たな手法にトライし、モデルケースを作ります。

NTT西日本様との取り組みについて



あしたへー with you, with ICT.



NTT西日本様との取り組み

今回の開催趣旨に、いち早くご賛同いただき
大会支援の意思表示をいただいたのがNTT西日本様です。

ソーシャルICTパイオニアであるNTT西日本様の技術、ソフト両面からのサポートを受け
このコロナ禍という環境において準備段階から可能な限りリモートを実践していきます。

大会当日はもちろんですが、そこに至る準備プロセスにもICTを活用した
新たな時代に相応しい手法を積極的に取り入れていきます。

Fencing × *ICT*





今こそ、スポーツにICTのチカラを。

Fencing Next Era Challenge



Supported by NTT西日本

NTT西日本様との取り組み: Fencing Next Era Challenge

人が、人らしく生きるために、スポーツは在る。

スポーツは、心を躍らせ、心を繋ぎ、心を強くする。

その使命を果たすため、フェンシングは動き続け、挑み続ける。

今こそ「ICT」の力で、更なる可能性を追求し

次の時代のあるべき姿を創造していく。

スポーツに、新たな道を。

フェンシングで、それを証明するために。

今こそ、スポーツの未来を。

Fencing
Next Era
Challenge

Fencing Next Era Challenge



NTT西日本様との取り組み: Fencing Next Era Challenge

「日本フェンシング協会」「大会運営チーム」「NTT西日本」が連携し、ICTを軸とした新たな大会準備・運営スタイルを実現。

★このスポーツにICTがもたらす。

Fencing
Next Era
Challenge



Fencing Next Era Challenge

NEW MANAGEMENT

1. 準備から可能な限りNTT西日本様協力のもと、リモートを徹底

- 事前打ち合わせ、会場設営、リハーサルも実施可能な範囲でリモートで行います
- リモートで実施するためのツール提供 NTTネオメイト社 ELGANAを活用予定
- 大会運営に係るICT相談サポートを全面的にNTT西日本様にご協力いただきます

2. 専門家指導による、最小の人数で実施

- 選手、審判、コーチ、スタッフの参加も最小限に留めます
- 専門家の指導を仰ぎ、徹底した新型コロナウイルス対策を行います

NEW EXPERIENCE

1. リモート観戦を盛り上げる仕組み

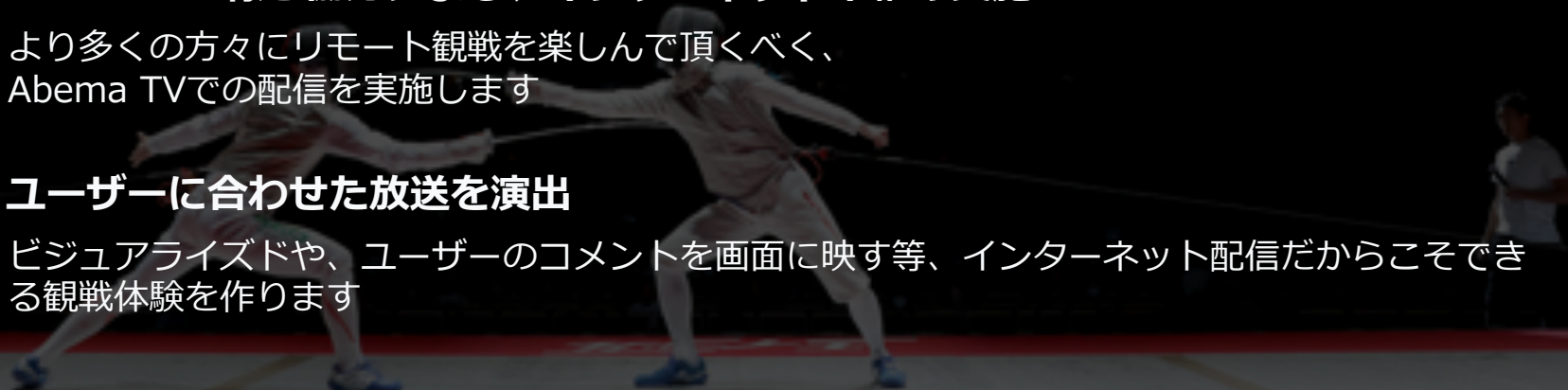
- ・ リモート観戦だからこそ伝えたい、選手の内面や競技の本質に迫る観戦体験を提供します
※取り組みの一つとして、NTTの研究所技術を活用し提供予定

2. Abema TV様ご協力による、インターネット中継の実施

- ・ より多くの方々にリモート観戦を楽しんで頂くべく、Abema TVでの配信を実施します

3. ユーザーに合わせた放送を演出

- ・ ビジュアライズドや、ユーザーのコメントを画面に映す等、インターネット配信だからこそできる観戦体験を作ります



NEW ENGAGEMENT

A woman in a blue sports uniform is presenting a trophy to a man in a light grey suit. The trophy is large and ornate, with a red and white ribbon. The background is dark, and the overall scene is dimly lit, with the subjects highlighted.

1. ギフティング制度の導入

- 観戦者からの能動的な応援を可視化するための手段として、ギフティング制度を導入します

2. クラウドファンディングの活用

- クラウドファンディングで集めた資金を大会の運営費等に充当することを検討しています

第73回全日本フェンシング選手権大会概要

● 期日

決勝 : 2020年9月26日(土)
予選 : 2020年9月17日(木) ~ 19日(土)

● 会場

決勝 : 未定(都内屋内施設を予定)
予選 : 駒沢体育館

● 組織者

主催 公益社団法人 日本フェンシング協会
協賛 NTT西日本様 / Abema TV様 他

● 大会形式・詳細スケジュール

調整中

● 特設ウェブサイト

7月中旬開設(予定)



苦境に立たされている未曾有の事態を
乗り越えることは簡単なことではありません。
しかし、ただ乗り越えるだけでなく、
この逆境を機会として捉え、多数の方々のご協力のもと、
新時代の観戦体験を実現します。

そして何よりスポーツ観戦を待ちわびている方と共に、
一緒にスポーツを楽しめることを、我々も楽しみにしています。

NEW STANDARD



**Grateful for
your support!**

